

## 重点プロジェクトの推進

## 1 事業内容

生活支援ロボットの早期実用化を促進するため、県民生活に大きなインパクトを与え、対外的な発信力に優れたものを重点プロジェクトに位置づけて、実現プランを作成し支援を行う。

## 2 平成26年度の取組内容

## (1) 重点プロジェクトの指定件数

今年度のプロジェクト12件に、新たな6件を加えた18件の指定を目指す。

## 平成26年度新規案件

NO	ロボット名称 (主な実施主体)	概要	備考
1	遠隔操作による超音波診断ロボット(早稲田大学)	遠隔地の端末から操作することにより、超音波診断を行うロボット	25年度 公募型ロボット 実証実験案件
2	心の健康計測システム(PST(株))	録音機で取得した音声データをソフトウェアで解析し、心の健康度を数値データで出力するロボット	
3	患者見守りシステム((株)タウ技研)	ベッドの下に置いたマイクロ波センサーで人体に触れることなく呼吸・心拍を測定し、異変を通報するロボット	
4	上記の他に、新たな3案件		-
5			
6			

25年度「公募型『ロボット実証実験支援事業』」で実施した「認知症高齢者のリハビリ・介護に活用できるロボットパートナー」は、今年度から実施している重点プロジェクト「介護施設における認知症患者を含む高齢者向けコミュニケーションロボット」と連携し、充実を図っていく。

## (2) アドバイザー支援

重点プロジェクトの早期の実用化・事業化を進めるためには、事業化や研究開発など多様な方面での支援が必要となるため、専門家を派遣してアドバイザー支援を実施する。

ステージ	支援内容	アドバイザーの例
開発段階	開発最終段階において、実用性の向上を図るため、各専門分野のアドバイザー支援を行い、開発から実証段階へとつなげる。	・ユーザーサイド研究者
実証段階	ロボット実証実験の内容や状況に応じ、各専門分野のアドバイザー支援を行い、実証実験を実施する。 (ア) モニター評価手法にかかる助言 (イ) 実証結果の評価にかかる助言 等	・倫理審査の専門家 ・ロボット評価研究者
実用化段階	介護・医療分野、災害対策分野のユーザー側の立場からだけでなく、経済及び社会的視点を含めた包括的な見地から、ロボットのデザイン性、販売方法、価格設定、海外展開などのアドバイザー支援により、市場への投入を強力にサポートする。	・デザイナー ・介護、医療、災害対応の各市場に関する専門家

## (3) 実証実験支援

真に役立つロボットとして、早期に市場へ投入することを見据えて、実証実験を行う施設等との調整、多数のモニターによる評価を行い、実施主体はロボットの改良を行う。(必要に応じて、複数回繰り返す。)